これからの医歯薬学系図書館：特に米国と北欧の図書館を参考にして

中山栄美子*

岡山大学附属図書館

I. はじめに

いままでに国内外約300館の図書館を見てきたのであるが、その方法としては、利用者の視点からということを中心として、主として建物・設備・雰囲気・サービス等物理的な意味での理想的と思われる図書館を個人的に模索してきた^{1)~4)}。そのため、原則としてアポイントメントなしで図書館を訪問している。これは、第一印象を大切にしたいと考えるとともに、案内されると自分の目で見たり、感じたりすることが困難になるからである。

今回特に2001年以降に訪れた海外の約200館の図書館の中から、いくつかの図書館を例に挙げて、これからの日本の医歯薬学系図書館を考える。

II. 理想的な医学図書館と海外における現状

日本国内の図書館全般において、歴史的に見ても利用させてやるという姿勢が残念ながら残っているように見受けられるが、少なくともこれからの図書館は今まで以上に快適に利用していただく姿勢が必要である。さらに図書館が、優秀な人材を輩出するために、大学にとって必要不可欠な場所となることによって大学に貢献し、ひいては社会に貢献することが望ましいと考える。

1. 理想的な医学図書館 Yale University Harvey Cushing/John Hay Whitney Medical Library

貢献している代表的な例として、2002年2月、6月及び2005年2月に訪問したConnecticut州New HavenにあるYale University Harvey Cushing/John Hay Whitney Medical Library⁵⁾が挙げられる。ここは学部の建物のほとんどが繋がっているなかで、その中心にある建物の1階に図書館の入口があり、中に入るとすぐのところに貸出カウンターがある。返却期限を過ぎると延滞料が取られ

ることになっているので、料金授受のためのレジスターが置かれている。カウンターの前には通路というには広すぎるくらいの空間があり、他の場所と隔絶されている。ここはフレキシブルな利用空間ということで、向側の壁際には大きな椅子とテーブルが置かれていることもあるが、パネル展示に変わることもある。カウンターの向側には設備の整えられた教育用の部屋が2002年訪問以降に設置されていると2005年2月に3度目の訪問をした際に伺った。カウンターの前を通りすぎると、重厚な雰囲気の円形スペースがあり、歴史的な展示物がケースに入れられて丸く配置されてある。中央の床には医学部の紋章(直径約1mの大きなもの)が埋め込まれている。そこを基点として左側に歴史的かつ重厚なMedical Historical Library⁶⁾があり、右側には雑誌閲覧室がある。雑誌閲覧室には当年分の雑誌がその場で読めるように机を取り囲んで配置され、すぐ横にある窓から外の景色が見える。閲覧室の中央は吹き抜けになっている。2階部分も同じように、中央吹き抜けを取り囲むかたちで3方向にそれぞれ窓に沿って雑誌と机が配置されている。さらに高い位置に明かりを取り込むための窓もあり、たいへんゆとりとした空間が確保されている。円形スペース正面の奥

写真1. Yale University Harvey Cushing/ John Hay Whitney Medical Library

*Emiko NAKAYAMA: 〒700-8530 岡山県岡山市津島中3-1-1. nnaka@mtg.biglobe.ne.jp

(2005年2月20日 受理)

写真2. Yale University Medical Library Periodical Room 1

写真3. Yale University Medical Library Periodical Room 2

がレファレンスカウンターと参考資料、検索用端末ほか、電気の節約が考えられた書庫となっている。書庫にも静かな場所の窓のあるスペースに机と椅子が円形通路にそっておしゃれに配置されていた。いずれもとても落ち着いた雰囲気である。さらに、利用者である研究者数名から「この図書館は素晴らしいでしょう。私は誇りに思っている。」と異口同音に声をかけられた。また、職員が公立図書館で行われる医学関係の検索のための講習に協力している、とのことであった。また、ホームページは医学関係の最新ニュースも含めて、必要な情報が利用者に効率よく提供されるものである。最近話題のOpen AccessのBioMed Centralは、ここにおられるCharles J. Greenberg氏が始められたそうである。大学への貢献・社会への貢献・利用者からの賛辞等まことに理想的な、あらゆる面で申し分のない医学図書館であるといえる。

2. 海外における現状

近年アメリカでは図書館の改築が盛んに行われている。インターネット、データベース、電子ジャーナルを中心とした情報収集が主流となってきたことに加えて図書館員による利用者教育が必須となってきたことも関係している。と同時にゆとりの空間の提供が海外の大学図書館では多く見受けられるようになってきている。

1) IUPUI (Indiana University Purdue University Indianapolis) Ruth Lilly Medical Library

2004年4月に訪問したIUPUI Ruth Lilly Medical Library⁷⁾はIndiana UniversityとPurdue Universityの2つの大学が一緒になった医学部図書館でIndianapolisにある。目を引く四角錐のガラス張りの屋根を持つ図書館の中は吹き抜けの明るい広々とした閲覧室となっている。

写真4. IUPUI Ruth Lilly Medical Library

2) Mayo Clinic Plummer Library

2003年3月に訪問したMayo Clinic Plummer Library⁸⁾は、1907年に建てられた歴史のある重厚な図書館でMinnesota州Rochesterにある。図書館はPlummer Buildingの12階から上の3フロアである。Dr. Mayoの肖像画が図書館入口付近のほか閲覧室にも掲げられている。閲覧室の窓はステンドグラスで、高い天井からのカーテン・ゆったりとした椅子・重厚な机・照明器具にいたるまで歴史を感じさせる落ち着いた雰囲気の図書館である。書庫には大量のビデオほかコピー機はそれぞれの階に設置され、閲覧室はより広々としたところになっている。なお、古い年代の図書及び雑誌類は別の場所の図書館に移動させている。世界的にも有名なMayo Clinicは、医学継続教育機関も兼ねていることもあり、ほかにも職員用の図書館がいくつもある。余談であるが、病院の建物はまことにすばらしいものである。それぞれの建物は地下で繋がっているのであるが、まるで地下街のように感じられた。

写真 5. Mayo Clinic Plummer Library

写真 6. University of Helsinki National Library of Health Sciences-Terkko

また、1階ロビーは吹き抜けになっていて、表側はガラス張りの高層ビルで外の景色が見えるほか、立派な椅子やテーブルがふんだんに配置されている。病院特有の息苦しさはここにはない。なお、必要と思われるようなものは、病院の建物内で購入することも出来るほか飲食に関しても、洒落た感じの店がいくつか見られた。院内案内の担当者も複数の場所に配置されているので、いつでも頼りになる。また、患者に対しても専門の図書室がある他、さまざまな説明が冊子体になって置かれている。また、交通の便などに関しても十分に配慮されている。

3) Library of Rush University

2004年2月に訪問した Rush University⁹⁾も、看護学校ほかいくつかの大学が1つになった大学で、Chicago 市内中心部にある。学部の建物のなかの2フロアが図書館になっている。この図書館内部はすべて間接照明で、特に階段が、カーペットの色・足元照明・広さ等すばらしい空間を提供している。これを見て、階段はただの移動の場所だけに終わらせることはもったいないと思われた。雑誌等は1990年頃以降のみ書架にあり、自館では無理に遡って所蔵しないで、文献依頼により取り寄せるまたは、電子ジャーナルを利用することで対応し、図書館内に閲覧・検索及び勉強のスペースを確保する方針である。

4) University of Helsinki National Library of Health Sciences-Terkko

2002年8月に訪問した University of Helsinki National Library of Health Sciences-Terkko¹⁰⁾は、Helsinki 市内北側の病院地区にある巨大で美しいガラス張りの図書館である。外観も美しいが、内部も清潔感にあふれ、最大限に明かりを取り入れるタイプの合理的・効率的な図書館である。中に入ると1階・2階とも書架が並んでいる。

書架の間に間隔を置いて、コピー機・机・椅子等が複数配置されているほか、1階入り口近くと、階段を上った半円形の空間にそれぞれ検索性端末が並んでいる。また、1階図書館正面側のガラスで仕切られた大きな別室がネットやメール等に使用するためのパソコンルーム(キータッチ等の騒音を防ぐため)である。最新の雑誌はその並びの吹き抜けになったところにあり、収納及び展示を兼ねた低めの書架が、列ごとに椅子をはさんだ配置で広い空間にゆったりと置かれている。ここでは、1990年頃以降は製本が中止されている。北欧では予算削減による見直し、ほか電子ジャーナルへの移行等から、1990年前後に製本を中止しているところが数多く見受けられた。

5) Howard University Health Sciences Library

2004年5月に訪問した Howard University は Washington D.C.にある。この大学は南北戦争が終わって2-3年のうちに黒人によって創立された大学である。Health Sciences Library¹¹⁾の内部は3階まで吹き抜けになっていて、とても明るくて広々とした素敵な図書館である。図書館前は広い芝生と通路と椅子等がある。図書館前の芝生に見える窓側に、広くて明るいグループ学習室がほぼ全面ガラス張りで数多くあり、加えて研究個室が多く見られたのが印象的であった。学生を重視していることが随所に見られた。また、人間性をないがしろにしない方針がグループ研究室のドアの上に戒めとして見受けられたことに感銘を受けた。

Ⅲ. 連携及び図書館の形態

1. New YorkにおけるMedical College of Cornell University と The Rockefeller University と Cancer Center

2004年5月に訪問したこれらの大学の図書館は Man-

hattan 地区の国連ビルの少し北にある。道路を挟んで南北に位置する2つの大学と Cancer Center では、お互いに自由に利用することができるようになっていて、共通の Tri-Institutional Library Catalog¹²⁾ 検索画面の利用が可能になっている。それぞれの ID を入力することになっているので部外者は利用不可である。

Weill Medical College of Cornell University¹³⁾ は、書庫内での飲食に対するウイトに富んだ注意書きが、1984年の医学図書館の31巻3号 p313の東西南北に掲載されていたので、ご存知の方もいるかと思われる。20年経った現在でも、新たにユニークな注意書きを作り出す精神は健在である。図書館内部の設計はたいへんおしゃれである。目的別に半階層ごとに段々に階段で降りようになっている、学生用の学習スペースの一部にグループ学習室がまとめられている。書庫に行く手前にパソコンの学習のための部屋とコピー室がある。当年分の雑誌が並べられた広いフロアの裏側には庭が見え、表通りに面した窓からは New York の町並みや人通りが見える。

写真7. Weill Cornell Medical Library Joan and Sanford I. Weill Medical College of Cornell University

The Rockefeller University¹⁴⁾ は研究所からスタートして今では大学になったところである。100年位前に研究施設と図書館が最初に造られている。窓から East River や対岸の景色が目の前に見えるシャンデリアのある2階の閲覧室や庭の望める落ち着いた1階の最新雑誌閲覧室には圧倒される。また、2階の閲覧室には昔の閲覧室の様子が写された写真がいくつか見られた。ほか1階の、大きな窓が数多くある雑誌書庫の壁際にインターネット・メール他用の端末が並べられている。図書館内は時代に合わせてかなり変貌している。

写真8. The Rockefeller University Library

2. Sweden 国内における Karolinska Institutet と Göteborg University

Sweden では国内全域で分野ごとに連携している。医学関係の中心となっているのは Karolinska Institutet Universitetsbiblioteket¹⁵⁾ である。2002年8月、9月に訪問した時すでに、電話やメールでの問い合わせも受け付けていた。当時は取寄せ資料の送料も無料とのことであったが、Stockholm 市内の南側に2002年9月開館の Sweden 国内最大の新館が完成して本格稼働してからは有料化されているようである。

新館ではグループ研究室やセミナー室等利用者用の椅子もそれぞれの部屋ごとに色を変えてあったり、あるいはタイプの違ったおしゃれなものが用意されている。ほか、軽食や飲み物の自販機が一角に置かれている。余談であるが、Karolinska Institutet では、新館事務室内の職員用の机や椅子はそれぞれの体格に合わせて調節が出来るとのことであった。

2002年9月に訪問した Göteborg University Biomedical Library¹⁶⁾ では、図書館が切立った崖のところに立っているためか、北欧では珍しく集密書庫になっていた。この集密書庫の書架は明るい黄色で、照明器具にも黄色の丸い輪のカバーがついている。訪問したときに、とても雰囲気明るくて好ましく思われた。閲覧室にセミナー室も完備されている。余談であるが、この図書館では、職員通用口のところに各自の ID カードおよびパスワードを使つてのチェック機能があり、勤務時間に関しては、早出したり、遅出にしたりと職員の個人的な理由によって融通が利くようになっていた。ほか、北欧では利用者の立ち入りを制限する場所にも、職員個人の ID カードとパスワードの併用が見られた。

写真 9. Göteborg University Biomedical Library

3. Ohio 州における州単位での連携 OhioLINK

周知のとおり Ohio 州では1996年から84の大学図書館及び公立図書館で連携している。資料は約4億点という。このことによって、いかに連携が必要かということを考えさせられる。

Ohio 州では2004年4月に訪問した Medical College of Ohio¹⁷⁾, Ohio State University¹⁸⁾ほか、州内にある大学の図書館を訪問すると、必ずと言ってよいほど OhioLINK¹⁹⁾を知っているかと尋ねられた。このことから OhioLINK が形だけのものではなく、活用されていることの証であると同時に誇りにしていると考えられる。活用されて初めて活きたお金を使っているといえるのではないか。大学ごと図書館ごとに、重複したものを購入しつづけるよりも、少ない予算でも広範囲に活用できるほうが、削減

写真10. Medical College of Ohio Raymon H. Mulford Library

されつつある予算の節約にもなる。そして、州全体に恩恵があることにもなる。州立も私立も垣根を越えての連携である。こうして高騰する資料にかかる予算を、それぞれの図書館で、コンピュータ教育へ、博物館部門の確立へ、よりゆとりのある空間へと変貌させることが可能となる。その結果、州立大学ほか改装しているところがいくつか見受けられた。

IV. 海外の医歯薬学系図書館の傾向

海外の図書館を見てきて感じることを次にあげてみる。

1. 医学・薬学・歯学分野だけの専門図書館といった単独の図書館が減少しつつあり、Health Sciences のような名称の複合分野になる傾向が増加してきている。大学の統合も影響していると思われる。
2. 米国・北欧ともに病院内には最新医学雑誌を備えた職員用の図書室を置くところが増えている。また情報開示の観点及び知る権利の補助から患者対象の図書室が増加傾向にある。
3. 大学関係者に、学外（自宅及び学会出張先等）からの情報入手のための接続を可能にしているほか、図書館内でのインターネット、メール、プログラミングは自由というところもあった。ダウンロードに関しては禁止しているところが多い。
4. 冊子体からデジタル資料への移行、特に E-Books が日本では考えられないほどに普及している。
5. NLM をはじめとして医学史図書館・博物館の併設が多くみられる。
6. 図書館が、学生・院生を対象とした教育する場所へと変貌してきているように見受けられる。検索コマンドだけではなく、何をするためにどのデータベースを選択するのか、論文作成のために必要な EndNote の使い方、Powerpoint を使用したプレゼンテーションの効率的な推奨例ほか、大学によっては EBM 教育がすべてというところもあった。なお、そのための職員が20名くらい確保されているというところもあった。
7. 利用者のために快適な空間を提供する傾向にある。図書館の建物・設備等に関しては、改築等による最新の設備とともに古き良き時代への懐古の傾向が見受けられる。今回ここで取り上げた以外の大学であるが、長期計画で巨大な医学系図書館の建築を予定しているところもあった。利用者にとっては、欲しい資料・情報等をすみやかに入手できることが図書館に対する最大要求事である。無駄な時間は使いたくないのである。ここ数年来、図書館に出向かなくとも必要な論文も図

書もが入手可能な時代になっている。が、他方ゆとりの空間も求められている。時間に追われている昨今、静かでこころが豊かになるような空間がなければ、ひらめきは生まれない。

V. 日本における現状と対策

日本における現状として、情報格差の問題がある。予算の多い大学では、それほど問題がないかもしれないが、削減されているところでは必要なものが提供不能となる。利用者である研究者・教官・学生は所属するところによって不利益を被ることになる。これでは日本の将来にもよい結果をもたらさない。

ではどうするか。Sweden や、Ohio 州ほか最近の米国では3つの州にまたがる協力体制もできてきている。このように、これからは公立・私立の壁を越えて協力することが望まれる。Open Access が最近欧米のみならず盛んになってきているようであるので、コンソーシアムを作ることによって基本的な資料の確保をすることが必要である。すでに世界レベルでのコンソーシアムも出来上がりつつあることも周知のとおりである。

と同時に、それぞれの図書館の特色を出して、より快適な利用空間を提供することが必要である。そうしなければ存続は望めない。図書館が快適であれば利用者は集まって来るものである。

VI. おわりに

時代によって図書館も変わる。特に自然科学系の図書館においては、資料提供に関しては図書館での利用よりも、インターネット、データベース、電子ジャーナル、E-Books 等の格段の普及により図書館外からの時と場所を選ばない利用へと変わってゆくことは否めない。が、人にしか出来ない事、行き届いたサービスはこれからも必要である。

少なくとも見てきた限りにおいて、米国、北欧においては司書の専門性が確立していることもあるが、皆とても信じられないくらいに親切である。それぞれの持ち場でできる限りのことをしている。これらの司書は、図書館にとっても大学にとっても宝である。そこからよりよい雰囲気生まれ、利用者との良好な信頼関係が生まれる。近い将来、図書館での対応が、学生・院生に対する教育中心となり、直接の来館利用が今より減少するとしても、メールでの問い合わせ・依頼に対する迅速な対処等のかたちで専門的な質の高い貢献が可能である。

これらのことが満たされれば、21世紀の図書館として

少なくとも大学にとって不要物とならずに済むであろうと思われる。さらに図書館が、大学に社会に貢献できる人材を輩出する助けとなるということが立証されれば欠くべからざる存在へと変貌できると思われる。

謝辞

これまで訪問した図書館の関係者のみなさま、特に Yale University Medical Library の Charles J. Greenberg 氏、Karolinska Institutet Library の Johnny Carlsson 氏、Göteborg University Library Biomedical Library の Agneta Olsson 氏に対して深く感謝いたします。

本稿は2004年11月18日、川崎医科大学現代医学教育博物館で開催された第11回医学図書館研究会において発表した内容に加筆・起稿したものである。

文献

- 1) 中山栄美子. 図書館が生き残るために必要なこと——図書館員の目から見た図書館の展望—. 薬学図書館 1999;44(4): 377-83.
- 2) 中山栄美子. 8th International Congress on Medical Librarianship に参加して. 医学図書館 2000;47(4):423-6.
- 3) 中山栄美子. これからの理想的な図書館とは: 特に米国の図書館見学をとおして. 医学図書館 2002;49(1):43-9.
- 4) 中山栄美子. 図書館見学をとおして感じること. 医学図書館 2004;51(2):97.
- 5) Yale University Harvey Cushing/John Hay Whitney Medical Library homepage[internet]. <http://www.med.yale.edu/library/> [accessed 2005-01-31]
- 6) Yale University Medical Historical Library homepage [internet]. <http://www.med.yale.edu/library/historical/> [accessed 2005-01-31]
- 7) IUPUI Ruth Lilly Medical Library homepage[internet]. <http://www.medlibiupui.edu/ref/consumar.html> [accessed 2005-01-31]
- 8) Mayo Clinic Plummer Library homepage[internet]. <http://www.mayo.edu/medlib/medlib.html> [accessed 2005-01-31]
- 9) Library of Rush University homepage[internet]. <http://www.lib.rush.edu/library/index.html> [accessed 2005-01-31]
- 10) University of Helsinki National Library of Health Sciences-Terkko homepage[internet]. <http://www.terkko.helsinki.fi/english/infomation/about/> [accessed 2005-01-31]
- 11) Howard University Health Sciences Library homepage [internet]. <http://www.howard.edu/library/~hsl/default.htm> [accessed 2005-01-31]
- 12) Tri-Institutional Library Catalog[internet]. <http://tri-cat.rockefeller.edu/> [accessed 2005-01-31]
- 13) Weill Medical College of Cornell University homepage [internet]. <http://www.library.med.cornell.edu/> [accessed 2005-01-31]

- 14) The Rockefeller University homepage[internet]. <http://www.rockefeller.edu/library/> [accessed 2005-01-31]
- 15) Karolinska Institutet universitetsbiblioteket homepage [internet]. http://www.kib.ki.se/index_en.html [accessed 2005-01-31]
- 16) Göteborg University Biomedical Library homepage[internet]. <http://www.ub.gu.se/bibliotek/Gm/> [accessed 2005-01-31]
- 17) Medical College of Ohio Raymon H. Mulford Library homepage[internet]. <http://www.mco.edu/lib/index.html> [accessed 2005-01-31]
- 18) Ohio State University John A. Prior Health Sciences Library homepage[internet]. <http://library.med.ohio-state.edu/> [accessed 2005-01-31]
- 19) OhioLINK homepage[internet]. <http://www.ohiolink.edu/> [accessed 2005-01-31]

Medical science libraries in the 21st century : Examples of medical libraries in the United States of America and Northern Europe

Emiko NAKAYAMA

Okayama University Library. 3-1-1 Tsushima-naka, Okayama-shi, Okayama, 700-8530, Japan

Abstract : About 300 libraries in the United States, Northern Europe, and Japan were investigated from a user's viewpoint. And I consider when I visit libraries, on the basis of seeing by my eyes and feelings from experience.

Users usually require data or documents immediately and appreciate a comfortable place. Thus medical science libraries should provide speedy service and a comfortable environment.

Many changes must occur in medical libraries in Japan; libraries in the United States of America and Northern Europe may be able to provide numerous ideas as to how to improve medical science libraries in Japan.

Key words : Ideal Library, Medical Sciences ; Libraries, United States of America ; Libraries, Northern Europe ; Comfort ; Environment

(*Igaku Toshokan* 2005;52(2):161-167)